



「杏林型ウェルネスツーリズム」の構想立案と実施による新たな地域観光振興の創出に関する研究

小堀貴亮(外国語学部) 石井博之(保健学部) 古本泰之(外国語学部) 北出恭子・中川智博(地域総合研究所客員研究員)

1. はじめに

本学では、2022年度より学部間連携の一環として、保健学部と外国語学部観光交流文化学科の連携により、ウェルネスツーリズムの概念に基づく地域教育・研究活動を実践してきた(図1)。その一環として、2021年に静岡県東伊豆町(図2)、2023年に愛知県田原市(図3)と地域包括連携協定を締結した。一方、2023年より長野県観光機構および長野県千曲観光局との連携による共同研究を開始している(図4)。ここでは、各地域における研究教育活動の成果を報告したい。

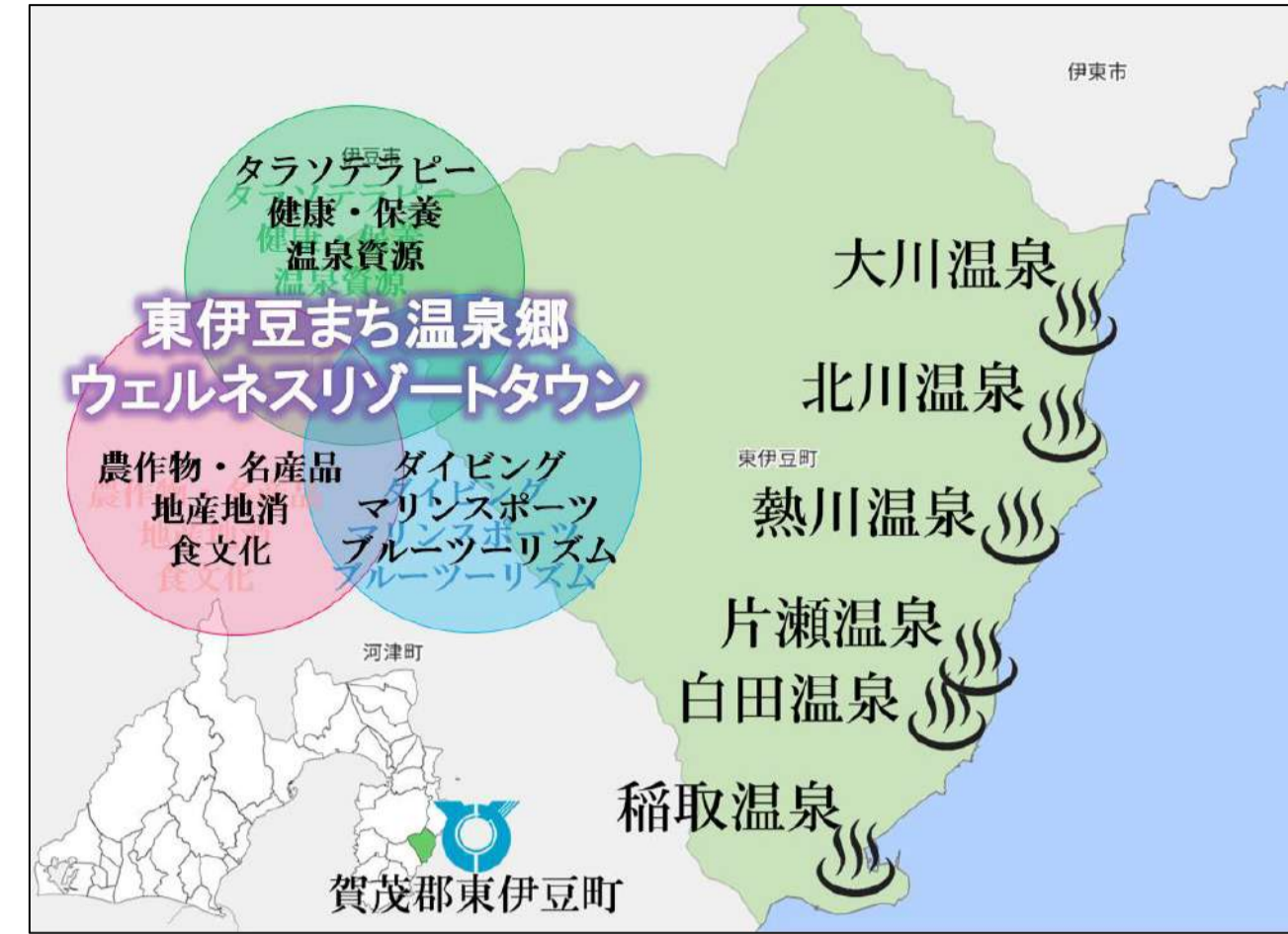


図1 学部間連携(保健×観光)の概要

図2 東伊豆町のウェルネスツーリズム概念図

図3 田原市のウェルネスツーリズム概念図

図4 連携地域の位置図

2. 愛知県田原市における取り組み事例

愛知県田原市は、渥美半島のほぼ全域に位置しており、全国でも有数の農業地域が形成されている。また、海に囲まれた渥美半島特有の自然環境とともに、風光明媚な観光資源に恵まれている。そして、2020年には同市で初となる温泉が湧出した。伊良湖岬付近に湧き出した貴重な温泉は、渥美地区のホテルや旅館など宿泊施設、農業施設などへの配湯が行われており、新たに誕生した温泉地としての活性化が期待されている3)。そして、温泉と豊富な農産物・海産物を生かした料理や食品加工品、温暖な気候や自然景観、スポーツツーリズムといった既存の観光資源と繋ぐことにより、この地を訪れることでさらなる健康と活力を享受できるような「田原市ウェルネスツーリズム構想」が提言された(図4)。このように、ウェルネスツーリズム推進のポテンシャルが高い同市において、教育・研究活動や現地調査を実施し、地域にその成果を還元していくことを目的として、2023年に本学と包括連携協定を締結した。

最初に、本学教員の専門性を活かした学術的アプローチの一環として、田原市における行政・観光関連従事者に対して、「田原市観光まちづくり実践塾」を開催した(図5)。本事業は、田原市からの業務委託により、「田原市の活力ある地域と人を育む観光まちづくりを考える」ことをコンセプトに、本学地域総合研究所の温泉・観光・保健分野を専門とするメンバー(教授および客員研究員)が講師として、極めて専門性・学術性の高い講座を実施した(図5・6)。なお、最終回は観光教育活動の一環として小堀ゼミの学生も参加し、田原市におけるウェルネス観光資源の視察(図7)と着地型観光企画のプレゼンテーションを実施した(図8)。その内容は、「伊良湖温泉」を核に、地域の自然や食(農産物・水産物等)を繋ぎ、渥美半島に来ると「もっと元気になる!」をコンセプトにウェルネスツーリズムを企画立案したものであり、地域全体で温泉資源の活用を図り、交流人口拡大と地域経済の活性化に繋げることを提案した。



図5 観光まちづくり実践塾チラシ

図6 観光まちづくり実践塾の様子 (第1回石井博之・第3回北出恭子)

図7 観光交流文化学科・小堀ゼミによる観光資源視察

図8 観光まちづくり実践塾における小堀ゼミ学生の研究発表・参加者とのディスカッション

3. 長野県千曲市における取り組み事例

長野県千曲市は、長野県北信地域の南東部に位置する人口約58,000の観光都市である。開湯120年の歴史を有する戸倉上山田温泉は古くから善光寺参りの精進落としの湯として栄えた。また、日本一といわれる「あんずの里」をはじめ、自然豊かな観光資源に恵まれている。同市とは、「杏林大学」と「日本一の杏の里・千曲市」という「杏」の絆をコンセプトとして(図9)、2023年度より長野県観光機構および千曲観光局と本学観光交流文化学科・小堀研究室との連携によるウェルネスツーリズム研究・教育が検討され、様々な情報交換をしながら議論してきた。そして、2023年度の観光交流文化学科専門科目である「ウェルネスツーリズム実習」において、「千曲市をモデルコースとした滞在型ウェルネスツーリズム」の構築をテーマとした授業を実施した(図10)。学生達は千曲市の観光資源や地域の現状について把握しながら、日頃の観光学の学びを活かしたアイデアが次々と提案された。その成果は「千曲市をモデルコースとした滞在型ウェルネスツーリズム」という形で企画ポスターとして表現し、本学で開催された温泉関連イベントにおいて展示した(図11・12)。

今後は、杏林大学と千曲市共通のシンボルである「杏」を活かした地域ブランドの創造など、杏をからめたコンテンツを訴求していくことが提案された。本学にとっては、学生達が本学の由来や建学の理念について改めて理解を深めていくとともに、日頃の学びに活かしていくこと、千曲市としては、本学の学生達が原点回帰(Retreat)できる貴重な場所として認知されることをそれぞれの目標として、今後も「杏の絆」による連携を続けていきたいと考える。



図9 千曲市のウェルネスツーリズム概念図

図10 長野・千曲との連携による授業風景(ウェルネスツーリズム実習)

図11 学生による千曲ウェルネスツーリズム企画ポスターの展示

図12 学生が作成した千曲ウェルネスツーリズム企画ポスター

4. 今後の展望

ここで取り上げた各地域ともに、本学が有する「保健×観光分野」の学部・学科間連携の将来性や価値に賛同いただきながら協力体制を構築しつつある。今後も大学による研究調査活動から得られるエビデンスや成果を活かし、新たな地域ブランディングを推進していきたい。そして、本学としては、保健と観光の連携によるウェルネスツーリズム研究・教育のステージとして活用しながら、様々な取り組みを学生達と実践し、本学独自のウェルネスツーリズムの形を構築していきたいと考えている。

参考文献

- 1) 石井博之・小堀貴亮・古本泰之・北出恭子・大久朋子(2013): 「杏林型ウェルネスツーリズムの構想立案と実施およびその妥当性検証の研究」 杏林大学地域総合研究所紀要、1~4頁。
- 2) 小堀貴亮(2021): 「愛知県田原市伊良湖地区における温泉観光開発と今後の展望」 温泉、89巻4号、36~37頁。